

旧真田山陸軍墓地とその保存を考える会  
第49回 真田山陸軍墓地講座

# なぜ日本の「戦没者」に「行方不明者」は いないのか：援護行政と遺族の戦後

2026年 **6月20日** (土) 15:00 ~ 17:00 開場 14:30

講師

**北村 毅氏** (大阪大学大学院人文学研究科教授)

会場

旧真田山陸軍墓地内集会所  
(大阪市天王寺区玉造本町 14-83)

定員

30名 (当日先着順)

最寄り駅

JR 大阪環状線「玉造」駅 徒歩 約5分  
Osaka Metro「玉造」駅 徒歩 約3分

参加費

500円 (院生・学生 100円)

恒例の「陸軍墓地講座」を今年度も開催  
します。申込み不要ですので、お気軽に  
お越しください。

日中戦争とアジア太平洋戦争における日本の「戦没者」は約310万人に及ぶが、援護行政において「行方不明者」というカテゴリーは事実上存在しない。「外地」での未帰還者を始め、沖繩戦や「本土」での戦争死者の多くは、身体の帰還や確認を経ないまま、戸籍法上の認定死亡や特別措置法に基づく失踪宣告といった行政手続きによって、便宜的に「戦没者」へと統合されてきた。

本報告では、国家が書類上の「最終解決」を優先したことで置き去りにされた、遺族の「あいまいな喪失」の諸相を検討する。空の遺骨箱を受け取らざるを得なかった人びとの証言や、死者と行方不明者を明別しない日本の特異な構造を分析し、身体の不在をめぐる戦後処理のあり方が、当事者の記憶と悲嘆にいかなる断絶をもたらしたのかを問い直す。

主催：NPO 法人 旧真田山陸軍墓地とその保存を考える会  
<https://www.assmcc.org/>

